

令和7年度「島内で働くことを考える会」に当たりまして

事業所の皆様におかれましては、年末の御多用の中、御来校いただき、誠に有難うございます。

本校は、現在1学年1学級の小さな規模ではありますが、本年度（令和7年度）創立60周年を迎え、創立以来の卒業生は4,782人にのぼり、島内においても町役場をはじめ、様々な事業所等で第一線を担っているとうかがっております。

また、本校は、令和5年度に、本県の県立学校において初めてコミュニティ・スクールに認定され、学校運営協議会の委員の方々との繋がりを基軸としながら、地域の多様な方々をはじめ様々な資源を活かし、「開かれた学校づくり」を推進しているところです。

本校における教育活動の柱としまして、地域に根差したキャリア教育及び課題解決型の学びの推進を掲げております。特に、1年生後半から2年生にかけての「パブリックワーク活動」において、例年、子育て、福祉、町づくり、環境等の各分野から探究すべき課題を見出し、その解決を図っていくために考察を重ね、高校生の視点から地域社会に対して提言を行っております。さらに、このパブリックワークを活動の中核に据え、日々の授業等も含めた学校の教育活動全体において、系統的に社会において必要とされる資質・能力の育成を図っております。

こうした課題を掘り下げていく活動を展開する一方で、ふるさとである新上五島町の魅力についても理解を深め、情報の共有を図ることを目的とする機会を設定しております。本年度は、来る12月23日（水）に新上五島町観光物産協会様、学校運営協議会の委員及び保護者等の御協力並びに御支援の下、公益財団法人JKAからの補助金を活用し、全校をあげて五島うどんやかんころ餅といった新上五島町の特産物の製作の工程を体験し、流通の過程についても理解を深めることで、地域社会に対する愛着や誇りを高めることができればと考えております。

ところで、本年（令和7（[2025]年）の「『現代用語の基礎知識』選 新語・流行語大賞」として、10月に自民党新総裁に選ばれた直後の演説で高市早苗氏が発した、「働いて働いて働いて働いて働いて働いてまいります」が選ばれました。こ

のフレーズに対する世間の受け止めは様々ですが、個人や社会が「働く」ということに向き合う一つのきっかけとなったのではないかと思います。それでは、生徒の皆さんは「働く目的」（何のために働くのか）をどのように捉えていますか。

「働く目的は何か」という問いについては、内閣府が本年10月に行い、その結果が先日公表された「国民生活に関する世論調査」の中で触れられています。この問いに対し、「お金を得るために働く」と答えた者の割合は63.5%、「社会の一員として、務めを果たすために働く」と答えた者の割合は10.7%、「自分の才能や能力を発揮するために働く」と答えた者の割合は7.1%、「生きがいを見つけるために働く」と答えた者の割合は13.1%となっています。しかしながら、働く目的に対する回答は、年齢やライフステージで変わり、さらに複数の理由が複合的に作用するものであるとされることから、自分なりの意味を見出すことが大切であると言われます。

さらに、本会の目的は、「島内で活躍している方々に、島内で働くことの意義や魅力、将来性や課題についての講話をしていただき、進路意識の高揚と仕事についての理解を深め、同時に郷土愛を育む。」ということであります。先週催行された2年生の修学旅行では、「家に帰るまでが修学」ということを踏まえ、普段目にすることができない、働く人々の姿も含め市井の様々な様子を観察することも学びの対象であることを意識して臨みました。本校ホームページに掲載された生徒の所感には、「普段できない経験や初めての体験をたくさんすることができました。満員電車で挫折し、心が折れそうになったことも今では良い思い出です。」と綴られています。働く場を選んでいく上において、オフィスの立地条件・施設設備等や自宅外の場合ですと社員寮・社宅の有無といった居住環境も重要な要件となるものと考えられます。多面的な視点から自分にとっての「働くことに対する最適解」を見出すとともに、積極的に参加して自らの学びを深め、社会・職業への円滑な移行に欠かせないキャリアプランニング能力等の基礎的・汎用的能力を培っていくことを期待しています。

最後になりますが、本日御来校いただきました各事業所及び講師の方々の益々の御発展をお祈り申し上げ、挨拶といたします。本日は、よろしくお願いいたします。